

道徳部会 研究の構想（案）

令和3年度～

I 研究主題

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める道徳科の授業はどうあればよいか。

－主として人との関わりに関すること－

II 主題設定の趣旨

現代の社会は、グローバル化や情報化の進展、少子高齢化等、社会の急激な変化がもたらす様々な影響により、将来の予測が困難な時代を迎えている。このような社会で生きて働く知識や力を育むために、「何を学ぶか」に加え、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」といった学びの質の転換が求められている。そして、その学びの過程となる「主体的・対話的で深い学び」をどのように実現するかが課題となっている。

道徳教育においては、「特別の教科 道徳」が令和元年度より全面実施となった。他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育むため、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題として捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」へと転換を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指してきた。

昨年度までは「主として自分自身に関すること」を副題に設定し、「指導する教師が道徳的諸価値をどれだけ深く理解し、授業に臨むか」「生徒が学習課題を自分の問題として捉え、それを多面的・多角的に考えることを通して、人間としての生き方について考えるための手立ては何か」という視点を軸として、授業改善に取り組んできた。3か年の研究から、改めて教師が道徳的諸価値の理解を深めておくことが授業改善につながる事が明らかになった。そこで、次の3年間では「主として人との関わりに関すること」の内容項目に焦点を当て、研究を進めることにした。

本県の生徒の実態を全国学力・学習状況調査の生徒質問紙から見ると、将来の夢や目標をもっている生徒の割合は、全国平均と比べ依然として低いが、これまでの道徳部会の取組の成果もあってか、平成29年度からの3年間では増加しており、自己肯定感が向上してきていることがうかがえる。このような実態を踏まえ、今後は、自己の生き方を人との関わりにおいて捉え、望ましい人間関係の構築を図るための道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度を養いたいと考え、研修の視点を「主として人との関わりに関すること」に絞ることにした。他者と対話し協働しながら、物事を広い視野から多面的・多角的に考察できるようにしていきたい。

本研究は3か年を1サイクルとして研究を進めている。同じ内容項目で分類整理し、3年間の研究を行うことで、指導する教師の道徳的諸価値の理解を深めることを意図している。そのような深い価値理解を基本として、年次ごとに重点研究内容を設定し、焦点化された研究を推進していきたい。

III 研究のねらいと内容

1 研究のねらい

主として人との関わりに関する道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める生徒を育てるために、実践的研究を進める。

2 研究内容

(1) 年次ごとの重点研究内容

2021年度（令和3年度）…道徳的諸価値の理解を基に、道徳的な考えを深める発問の工夫
2022年度（令和4年度）…道徳的諸価値の理解を基に、道徳的な考えを深め合う話し合いの場の工夫
2023年度（令和5年度）…評価との一体化を意識した指導

(2) 道徳科の授業を構想するための方策

(3) 道徳科の授業に生かす指導方法の工夫

道徳部会 令和3年度研究計画（案）

I 研究主題

主として人との関わりに関する道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める道徳科の授業はどうあればよいか。

－道徳的諸価値の理解を基に、道徳的な考えを深める発問の工夫－

II 主題について

令和3年度から、内容項目の四つの視点のうちの「B 主として人との関わりに関すること」を中心として、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める生徒を育てる道徳科の授業について研究する。

令和元年度から全面実施となった「特別の教科 道徳」では、物事を多面的・多角的に考えさせる発問やグループ活動等話合いの場、教材提示の工夫をするなど、指導方法の工夫を中心に実践を重ねてきた。この取組から、生徒の多様な意見を引き出すには、考える必然性や切実感のある発問を考えること、また、教師の一方的な価値観の押し付けや単なる生活経験の話合い等に終始することのないよう、指導の効果を高めることが大切であることが解明された。しかし、実際には、教材分析が十分でないため中心的な発問が適切でない授業や、教師と生徒による1対1のやりとりだけで進む授業も見られた。このことから、他者や社会、周囲の世界の中との関わりを通して、自己を深く見つめる「対話的な学び」の必要性が明らかになった。自己を人との関わりにおいて捉え、望ましい人間関係の構築を図るため、綿密な教材分析や考える必然性や切実感のある吟味された発問について、検討する必要がある。

そこで今年度は、「道徳的諸価値の理解を基に、道徳的な考えを深める発問の工夫」に焦点を当てて研究を進める。授業を行う際には、主題となる内容項目について教師自身が理解を深め、ねらいに迫る中心的な発問を吟味し、次にそれを生かすためにその前後の発問を考えていきたい。予想される生徒の思考に沿った発問や、問題意識や疑問等から多様な感じ方や考え方を引き出す発問、物事を広い視野から多面的・多角的に考えさせる発問等を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」のある道徳科の授業を目指し、実践的研究を推進していきたい。

III 研究内容とその視点

内容項目の四つの視点のうちの「B主として人との関わりに関すること」を中心とした道徳科の授業において、どのような発問を行えば、自己を人との関わりにおいて捉え、物事を広い視野から多面的・多角的に捉える考えを引き出し、道徳的価値や人間としての生き方について理解を深める授業となるのかを実践を通して明らかにする。効果的な発問を行うには、本時のねらいを明確にしておくことや教材の分析に基づいた発問構成の吟味等、全体的な授業構想が大切な視点となる。また指導と評価の一体化を意識した効果的な発問へと導くための様々な指導方法の工夫も同様に大切な視点となる。このような視点に基づき研究実践を行い、次年度以降の研究につなげていきたい。

1 道徳科の授業を構想するための方策

(1) 道徳科の授業における明確なねらいの設定

- ・具体性と簡潔性を兼ね備えた「ねらい」を設定する。

一例 教材「加山さんの願い」

「(A) 二人の高齢者との交流によりボランティアへの認識を考え直す加山さんを通して、(B) 社会参画と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めようとする (C) 道徳的実践意欲を育てる」

「(A) では、教材の活用を簡潔に表記し、(B) では内容項目から焦点化したものを的確に示し、(C) には道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度を考慮して示す。

- ・内容項目の何に重点を置くのか明確にする。〔思いやり、感謝、公正、公平〕等、複数の要素で一つの項目が構成されている場合は、生徒の実態と照らし合わせ、使用する教材の分析を基にして「どの部分を深めるか」を考え、重点を置くべき要素を明確にする。

(2) 発問の吟味

- ・授業者が教材を吟味し、内容項目を学習指導要領解説と照らし合わせながら、深く理解する。
- ・道徳的価値の理解を深めるのにふさわしい中心場面を設定し、中心的な発問を工夫する。
- ・中心的な発問からどのような生徒の発言が予想されるのかを明確にする。
- ・生徒の思考過程を予想し、中心的な発問を生かすための前後の発問を設定する。
- ・中心的な発問に対する考えを、より深めるための問い返しを工夫する。
- ・発問を設定する際には、生徒の思考を予想し、それに沿った発問や、考える必然性、切実感のある発問、多様な思考を促す発問、物事を多面的・多角的に考えさせる発問等となるよう工夫する。

2 道徳科の授業に生かす指導方法の工夫

(1) 話合いの工夫

- ・生徒一人一人の道徳的なものの見方や考え方を深めていくために、考えを出し合う、比較するなどの目的に応じて効果的に話合いが行われるようにする。
- ・座席の配置、話合いの形態や構成人数等を工夫する。
- ・話合いが表面的、形式的なものに終始しないように留意する。

(2) 書く活動の工夫

- ・道徳的価値に関わる自分の考え方や感じ方を整理し文章化することで、自分自身を客観的に認識し、道徳的価値に関する思いや課題を深め、新たな思いや願いを抱くことをねらいとして書く活動を効果的に取り入れる。
- ・書く活動を取り入れ、自らの考えを深めたり、整理したりする機会となるようにする。
- ・自分自身とじっくり向き合う時間の確保や学びを継続的に深めるノートの活用等に努める。

(3) 動作化や役割演技等の表現活動の工夫

- ・人との関わりで多様な考え方や感じ方に気づき、道徳的価値について理解を深めることができるよう、資料によっては、動作化や役割演技、コミュニケーションを深める活動等の表現活動を取り入れる。

(4) 板書を生かす工夫

- ・生徒の考え方、感じ方の違いや多様さを対比的、構造的に示す工夫、中心部分を浮き立たせる工夫をする。
- ・ねらいに関わる生徒の発言はキーワードで簡潔に板書する。

IV 研究方法

- 1 研究主題を主体的に受け止め、各学校で日々の実践活動を通して主題の解明に努める。
- 2 各学校での実践資料や成果等を持ち寄り、各郡市、地区ごとに研究を深める。
- 3 各郡市、地区ごとに研究の視点を明確にし、研究授業、研究協議を通して、指導法の実践的研究を進め、主題の解明に生かす。
- 4 各郡市、地区ごとの研究結果を踏まえ、情報を交換し、次年度以降の研究に生かす。

